



8月9日に思う

1945 年 8 月 9 日 午前 11 時 2 分。一発の原子爆弾が、長崎を一瞬にして死の街へと変えました。あれから 81 年目の今日、みなさんは何を感じ、何を思ったのでしょうか。

私は、当時の惨状を経験したわけではありません。みなさんと同じ、戦争を知らない世代です。しかし、幼いころから長崎で育ち、原子爆弾のことについて、ごく自然に写真や資料にふれる機会は多かったと思います。また、教師という仕事柄、大人になってあらためて被爆者の方々からお話を聞く機会も多く、たった一発の原子爆弾が、一瞬にして多くの人の命や大切なものを奪い取り、その方々の人生を大きく変えてしまったことに、憤りを覚えます。また、命の危険もなく、当たり前で生活ができる今の自分は、とても幸せだと感じる機会が増えました。

現在の日本で、「命の危険がない」ということは、当たり前のことです。しかし、第二次世界大戦終了後から今日に至るまで、世界のどこかで常に戦争が起こっています。私たちにとって当り前のことが、そうではない人々がいるのです。戦争や原子爆弾のことについてまったく知らない人は、戦争によって何が起きたのか、原子爆弾が投下されて街や人々がどうなったのか、興味を持つこともないでしょう。そして、それが周りにどのような影響を及ぼしたり、もしかしたら、自分の未来に影響したりすることになるかもしれないなどということは、想像することもできないでしょう。私たちは戦争を経験していません。だからこそ、それがどのようなものであるかを知らなければならないのではないのでしょうか。知ることによって、そこから人間は自分で考え、想像することができます。相手の痛みや悲しみを想像し、理解しようとするのができるのです。

The basis of peace is for people to understand the pain of others.

平和の原点は、人の痛みがわかる心をもつことです。(〇〇 〇〇)

上の言葉は、被爆者 故〇〇〇〇さんの言葉です。皆さんと同年代の 13 歳で被爆した〇〇さんは、原爆によって大やけどを負い、顔や体に痕が残り差別や後遺症に苦しめられましたが、それを乗り越え、自らの体験を国内外の人々に語り続けました。

戦争は、国と国が争い、人種や言葉、宗教が違うというだけで、人を殺すことが何の罪もなく当然のことのように行われます。そんなことは、絶対あってはなりません。しかし、平和の原点は、もっと身近なところにあるのだと〇〇さんはおっしゃっているのではないのでしょうか。

相手の心に寄り添うこと、自分と異なる考えに耳を傾けること、友達や家族を大切にすること。そうした毎日の小さな思いやりや対話こそが平和な世界をつくる原点なのではないのでしょうか。周りの人への「Respect」の気持ちをもって生活していくことで、誰もが安心して笑顔で生活できる世界になってほしいと心から願っています。そんな平和への第一歩を、私たち西泊中から発信していきましょう。



平和は長崎から！

平和は西泊から！

